

第2回四国4大学合同研究発表会基調講演

日時：令和元年12月20日（金）10:30～12:00

場所：徳島大学藤井節郎記念センター 藤井節郎記念ホール

【演題】

「胸腺上皮細胞に発現する転写調節因子Aireを用いた自己免疫病態の解析」

徳島大学先端酵素学研究所 免疫病態学分野
教授 松本 満 先生

原因不明の難病である自己免疫疾患の病態を明らかにすることは、免疫システムの根幹をなす「自己・非自己の識別機構」の作動原理を理解することに他ならず、免疫学における重要課題である。そのため、比較的まれな疾患であるにもかかわらず、ヒトの遺伝病であるAire欠損症は自己免疫疾患の病態解明に重要な役割をはたすと期待されている。Aire欠損症は単一遺伝子疾患であるため、Aire遺伝子の改変操作によってマウスにヒトと同じ病態を再現できる。すなわち、Aireの研究によって自己免疫疾患においても真の実験医学が可能になったと言える。

こちらは、大学院医科学各教育部、栄養生命科学教育部、
口腔科学教育部の大学院特別講義、ならびにクラス
ターコアセミナー（肥満・糖尿病クラスター、感染免
疫クラスターを兼ねています

問い合わせ
徳島大学蔵本事務部医学部学務課第一教務係
大学院担当
TEL : 088-633-9649
E-mail : isygakumudgic@tokushima-u.ac.jp



松本 満 (マツモト ミツル)

昭和32年 8月14日生

【学歴および職歴】

昭和58年 3月 愛媛大学医学部医学科卒業
愛媛大学医学部附属病院・医員（第一内科）
昭和63年 3月 愛媛大学大学院医学研究科博士課程修了
（医学博士：愛媛大学）
昭和63年 4月 面河村・国民健康保険診療所長
平成元年10月 愛媛大学医学部附属病院（第一内科）・助手
この間、実験動物中央研究所（勝木元也教授）で発生工学を研修
（平成2年10月～平成 3年 3月）
米国ワシントン大学医学部（David. D. Chaplin教授）に留学
（平成5年 9月～平成 8年 8月）
平成10年7月 愛媛大学医学部・助教授（第一内科）
平成10年9月 徳島大学分子酵素学研究センター・教授
平成28年4月 徳島大学先端酵素学研究所・教授
（改組による） 現在に至る。

【受賞歴】

第37回日本リンパ網内系学会奨励賞（平成10年5月）
平成20年度・日本医師会医学研究奨励賞

【所属学会および役職等】

- 日本内科学会（平成2年）総合内科専門医：日本生化学会（平成13年）評議員：日本免疫学会（平成15年）評議員
- AMED-CREST「臓器特異的自己免疫疾患の病態解明による慢性炎症制御法の開発」（平成23～28年度）研究代表
- 文部科学省科学研究費・新学術領域研究「ネオ・セルフの生成・機能・構造」（平成28～令和2年度）領域代表
- Journal of Biological Chemistry（平成28年～）Editorial Board Member
- AMED-CREST「健康・医療の向上に向けた早期ライフステージにおける生命現象の解明」（令和元～8年度）アドバイザー